

## 1 - 6 2016年の南極域の紫外線

南極昭和基地における2016年の紅斑紫外線量日積算値の月平均値を図1-14に示す。ここでは、参照値（1994～2008年の月別累年平均値）との比較として、参照値からの差が標準偏差以内のときを「並」、それより大きいときを「多い」、それより小さいときを「少ない」としている。紅斑紫外線量は、1～4月にかけて多く、特に1月はその月として観測開始（1993年）以来第3位の高い値となった。また、極夜期間（一日中太陽が昇らない期間）が明けた後、9月、11～12月は並となった。

南極オゾンホールが存在する期間（8～12月）の南極昭和基地における2016年の紅斑紫外線量日積算値とオゾン全量、及び全天日射量の推移を図1-15に示す。紅斑紫外線量日積算値は、累年平均値と比較すると、8～9月は同程度で、11月は上旬に多く中旬と下旬に少なく、12月は同程度かやや少なく推移した（赤丸印）。紅斑紫外線量日積算値が多い11～12月の推移は、概ねオゾン全量の推移（緑丸印）と対応した逆相関を示している。

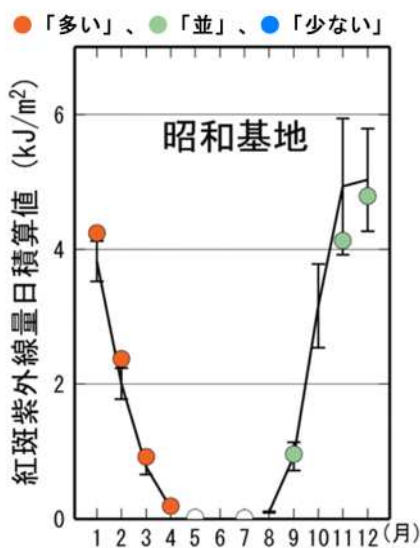


図1-14：2016年の紅斑紫外線量日積算値の月平均値  
南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値の月平均値。印は2016年の月平均値。実線は1994～2008年の月別累年平均値、縦線はその標準偏差。ただし、極夜前後（5～7月）は月別累年平均値を算出していない。また、10月は、観測資料数が基準未満（1か月あたり20日未満）となったため、月平均値を表示していない。なお、8、10月はブリザードによる観測休止、及び観測機器の障害により欠測した。

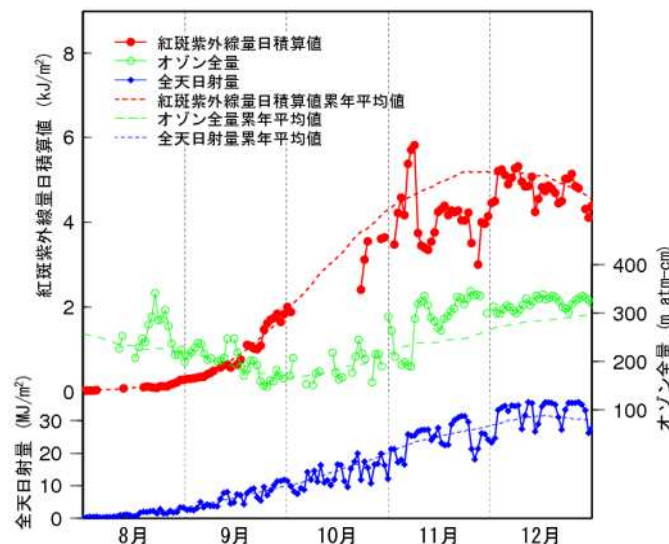


図1-15：2016年の南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値、オゾン全量、全天日射量

2016年の南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値、オゾン全量、全天日射量の観測値（実線）のほか、参照値として、それぞれの要素の1994～2008年の日別累年平均値の15日移動平均値（破線）を示す。なお、10月はブリザードによる観測休止、及び観測装置の障害により長期間欠測した。